

企業成熟度、技術競争力とデフォルトリスク

井出 真吾 CMA
竹原 均

目次

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1. 企業成熟度、技術競争力、デフォルトリスクの相互関係 | 4. ポートフォリオ法の適用結果 |
| 2. 数値指標の定義と研究仮説の設定 | 5. 単純傾斜分析・回帰分析の結果 |
| 3. 検証方法・使用データ | 6. 結論と将来の研究課題 |

本稿では企業成熟度と技術競争力が、倒産距離とそれに含まれるパラメータに与える影響を分析した。長期パネルデータを使用した回帰分析の結果から、成熟度と技術競争力は総資産ボラティリティを低下させるものの、倒産距離を上昇させる状況は確認できなかった。ただし技術競争力は企業成熟度と総資産ボラティリティ、ならびに総資産成長率との間に確認された負の相関関係を緩和するモデレータであることが明らかとされた。

1. 企業成熟度、技術競争力、デフォルトリスクの相互関係

企業成熟度がデフォルトリスクに与える効果は、Dickinson [2011]、Atif and Ali [2021] などの先行研究において議論されている。また特

許権・技術競争力がデフォルトリスク（あるいは負債コスト、債券価格評価）に与える効果についても実証分析の蓄積がある（Hsu *et al.* [2015]、Griffin *et al.* [2018]、Frey *et al.* [2020]）。さらに、財務制約と企業のイノベーションとの関係については、Gorodnichenko and Schnitzer [2013]



井出 真吾 (いで しんご)

ニッセイ基礎研究所 上席研究員 チーフ株式ストラテジスト。1993年東京工業大学工学部卒業、同年4月日本生命保険入社。1999年ニッセイ基礎研究所、2018年より現職。主な著作に「株式市場における特許情報の価値関連性に関する実証分析」（『現代ファイナンス』、2016年、共著）、『40代から始める攻めと守りの資産形成』（日本経済新聞出版、2022年）などがある。日本ファイナンス学会理事。



竹原 均 (たけはら ひとし)

早稲田大学大学院経営管理研究科教授。1989年筑波大学博士課程社会学研究科単位取得退学、同年4月(株)エムティービーインベストメントテクノロジー研究所（現三菱UFJトラスト投資工学研究所）入社。1993年博士（経営工学・筑波大学）。筑波大学社会学系助教授、早稲田大学ファイナンス研究科教授を経て2016年4月より現職。主な著書に、『*Reform and Price Discovery at the Tokyo Stock Exchange from 1990 to 2012*』（Palgrave MacMillan、2015年、共著）がある。